



内閣府発表  
平成22年4月2日

担当 内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付 高齢社会対策担当	参事官 政策調査員	本多 則惠 小島 武彦 中里 京子
電話： 03-3581-9268 (直通)		

## 「高齢者の地域におけるライフスタイルに関する調査」結果

○調査対象 : 全国の60歳以上の男女5,000人

○有効回答数（率） : 3,484人（69.7%）

※高齢者と地域社会・近隣との「つながり」の現状や高齢者の「支え合い」のニーズ等を把握することを目的に行った調査

### 1. 孤独死を身近に感じる人（非常に感じる、まあまあ感じるの合計）は 42.9%

- ・ 単身世帯の約3分の2、64.7%が孤独死（誰にも看取られることなく、亡くなったあとに発見される死）を身近に感じている。大都市、中都市では、孤独死を身近に感じる人が5割近く、小都市、町村では約4割とやや少ない。
- ・ 男性では75歳、女性では80歳を過ぎると、「孤独死を身近に感じる」人の割合は約3割と、他の年齢層に比べて低くなる。一方、60代前半の女性では48.5%の人が孤独死を身近に感じている。
- ・ 健康状態が良くない人ほど「孤独死を身近に感じる」人が多く、「健康状態が良い」と回答した人で「孤独死を身近に感じる」人は36.9%に対し、「健康状態が良くない」と回答した人では52.0%であった。

### 2. 何らかの手助けやサービスを受けている人は、全体では 10.9%、健康状態がよくない人では 24.7%。手助けやサービスが必要と感じているのに受けていない人は全体では 3.6%だが、健康状態がよくない人では 12.2%。

- ・ 健康状態がよくない人が受けている手助けやサービスは、「通院や送迎や外出の手助け」が17.7%、「話し相手や相談相手」が14.6%、「食事づくりや掃除・洗濯の手伝い」が14.5%、「ちょっとした買い物やゴミ出し」が14.0%であった。

### 3. 地域の困っている高齢者の家庭に対して、現在、何らかの手助けをしている人は約3割、手助けをしたいと考えている人は約8割。

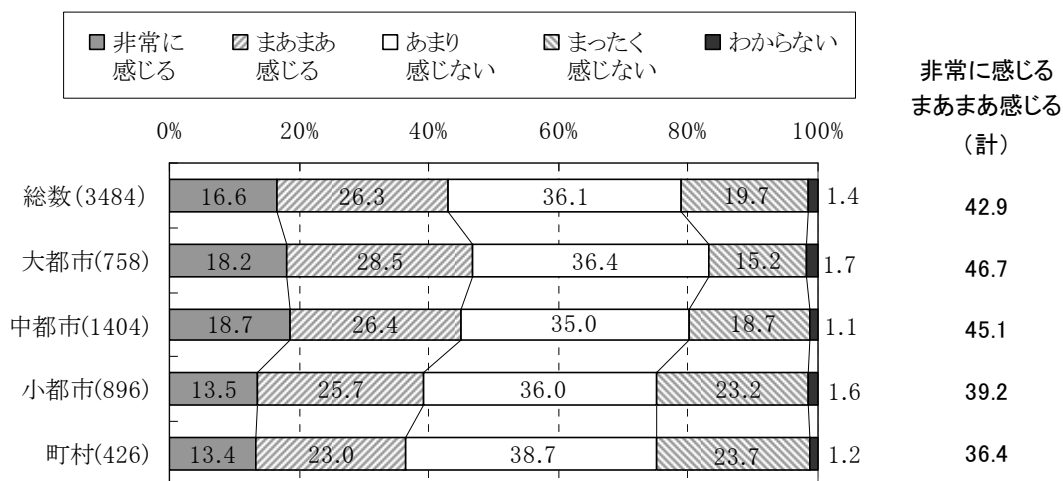
- ・ 現在、地域の困っている高齢者の家庭に対して、何らかの手助けをしている人は29.0%。手助けの内容として、「安否確認の声かけ」が15.2%、「話し相手や相談相手」が12.3%。
- ・ 今後、地域の困っている高齢者の家庭に対し、手助けをしたいと思う人は80.3%。手助けの内容として、「安否確認の声かけ」が45.9%、「話し相手や相談相手」が35.6%、「急に具合が悪くなったときの手助け」が26.7%であった。

## 1. 孤独死を身近に感じる人(非常に感じる、まあまあ感じるの合計)は 42.9%

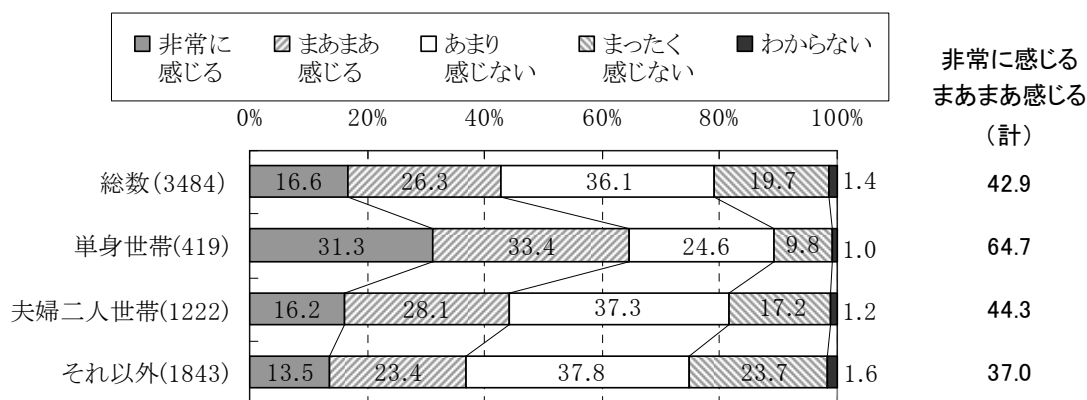
- ・ 単身世帯の約 3 分の 2、64.7%が孤独死(誰にも看取られることなく、亡くなったあとに発見される死)を身近に感じている。大都市、中都市では、孤独死を身近に感じる人が5割近く、小都市、町村では約4割とやや少ない。
- ・ 男性では 75 歳、女性では 80 歳を過ぎると、「孤独死を身近に感じる」人の割合は約3割と、他の年齢層に比べて低くなる。一方、60 代前半の女性では 48.5%の人が孤独死を身近に感じている。
- ・ 健康状態が良くない人ほど「孤独死を身近に感じる」人が多く、「健康状態が良い」と回答した人で「孤独死を身近に感じる」人は 36.9%に対し、「健康状態が良くない」と回答した人では 52.0%であった。

Q11 孤独死(誰にも看取られることなく、亡くなったあとに発見される死)について、身近な問題だと感じますか。

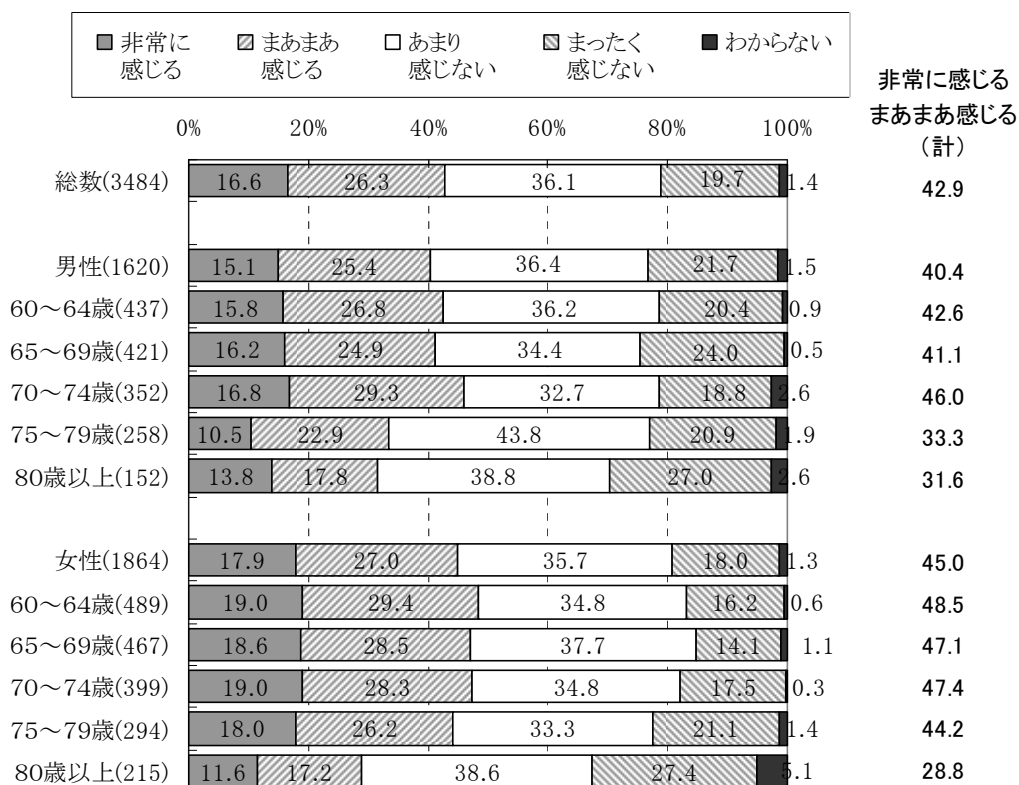
<都市規模別>



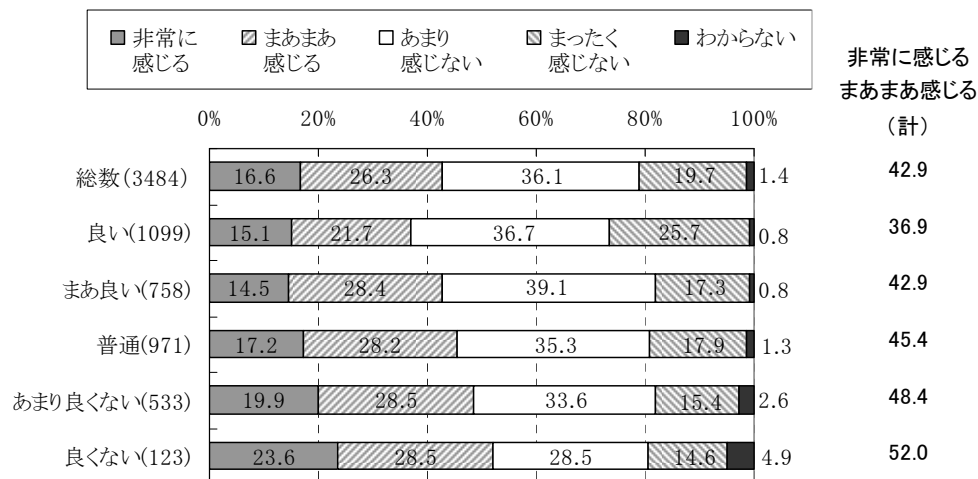
<世帯類型別>



<性年齢別>



<健康状態別>

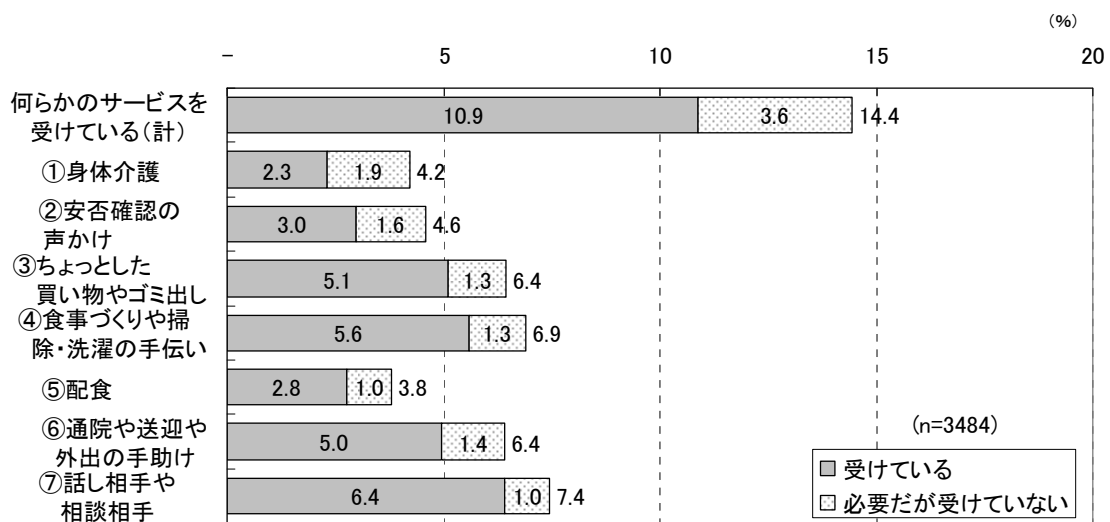


2. 何らかの手助けやサービスを受けている人は、全体では 10.9%、健康状態がよくない人では 24.7%。手助けやサービスが必要と感じているのに受けていない人は全体では 3.6%だが、健康状態がよくない人では 12.2%。

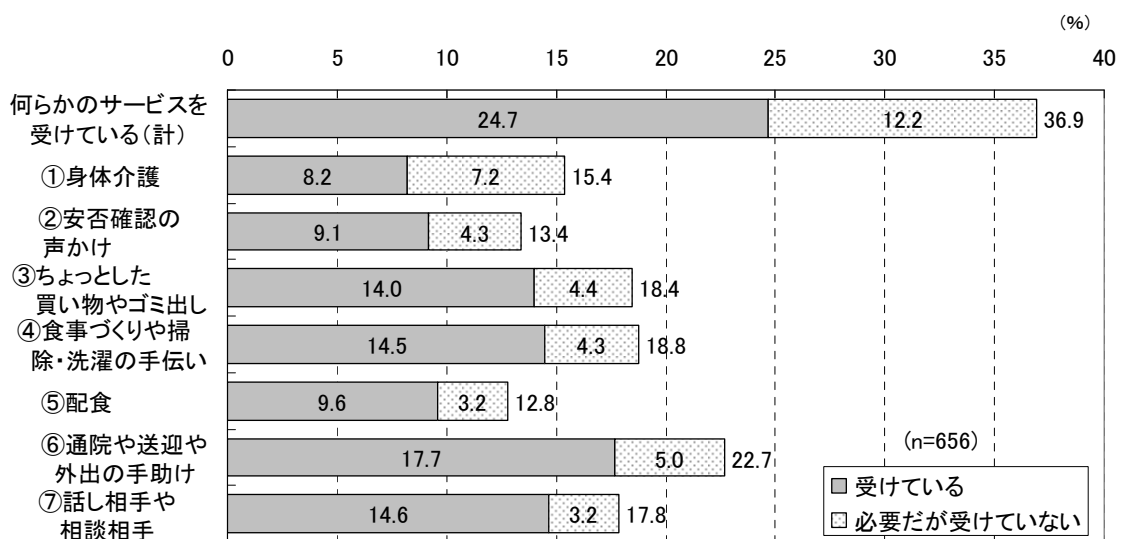
- 健康状態がよくない人が受けている手助けやサービス」は、「通院や送迎や外出の手助け」が 17.7%、「話し相手や相談相手」が 14.6%、「食事づくりや掃除・洗濯の手伝い」が 14.5%、「ちょっとした買い物やゴミ出し」が 14.0%であった。

Q13 現在、受けている手助けや福祉サービスについて

<全体>



<健康状態が「よくない」、「あまりよくない」と回答した人>



### 3. 地域の困っている高齢者の家庭に対して、現在、何らかの手助けをしている人は約3割、手助けをしたいと考えている人は約8割。

- ・ 現在、地域の困っている高齢者の家庭に対して、何らかの手助けをしている人は 29.0%。手助けの内容として、「安否確認の声かけ」が 15.2%、「話し相手や相談相手」が 12.3%。
- ・ 今後、地域の困っている高齢者の家庭に対し、手助けをしたいと思う人は 80.3%。手助けの内容として、「安否確認の声かけ」が 45.9%、「話し相手や相談相手」が 35.6%、「急に具合が悪くなったときの手助け」が 26.7%であった。
- ・ 「実施している手助け」と「実施したい手助け」を比較すると、いずれも「実施したい」と回答する高齢者が上回っている。

Q17 地域の困っている高齢者の家庭に対して、あなたは何か手助けをしていますか。この中からあなたが行っている手助けがあればいくつでもあげてください。(M. A.)

Q18 地域で、高齢者が困っている家庭があった場合、あなたはどのような手助けをしようと思いますか。既に行っている手助けも含めて、この中からあなたがしようと思う手助けがあればいくつでもあげてください。(M. A.)

